

日本企業と日外協の50年

日外協は今年で創立 50 年目を迎える
言語の違いや文化の摩擦
国際政治経済の目まぐるしい変化と治安の悪化
自然災害、感染症、激化する競争……
次から次へと大波のように押し寄せる試練
50 年の間に起こった国内外の出来事を
日外協の OB と関係者による証言を交え振り返る

1970年代

日本の本格的な海外投資の黎明期^{れいめい}。日本企業の進出ラッシュにアジアでは対日批判が高まる。当時の経済界は海外投資のあり方を示した『海外投資行動指針』を策定。その普及団体として日外協は設立された。

1980年代

急激な円高を背景に、第二次海外進出ブーム到来。日外協は全世界を対象地域にした新「海外投資行動指針」を策定するとともに異業種間の多角的な情報交流の促進に努める。

1990年代

バブル崩壊による日本経済低迷で海外投資は新段階に。日外協は海外安全とマネジメントの現地化支援に注力する。

2000年代

新興国経済が急成長を遂げる一方で、競争はさらに激しく。9・11同時多発テロなど、世界的に政情が不安定化する中、日外協は危機管理支援の強化を目指す。

2010年代

日本の対外直接投資はM&Aにけん引され回復。国際化の新たな波が押し寄せる中で、日外協は講演会・グループ研究会の拡充を図るとともに『企業グローバル行動指針』を策定。

2020年代

コロナ禍で世界中の社会経済活動が停止状態に。その後、収束に向かうも国際情勢は混迷の一途をたどる。日外協は「国際人事・労務」「海外安全・危機管理」「海外健康・医療」の3つの分野に注力。